

アンケートから抽出した意見の構造化

で塗りつぶされている部分は、目指す姿の「幸福の要素・分類」又は、その姿。大項目です。

で塗りつぶされている部分は、目指す姿の上記大項目について、その姿、又はそれを実現するための方針。小項目です。
この大項目と小項目が【目指す姿】になります。

で塗りつぶされている■◎○・の記号を使った項目はアンケートの意見から要点を抽出ものです。※一部表現を変更したり、補足の為に項目を加え、出来る限り多くの意見を取り入れました。
この部分は、参考として掲載しました。

【目指す姿】 A案構造化

1. 『人・地域・自然とのつながり』

1-1. 多様性を認め合い、ふるさとを想う気持ちで結ばれた人と人とのつながり

- 価値観の画一化、排他的傾向に対し、自由で多様性を尊ぶ社会
- 「語り、理解し、支えあう自然と地域」
- ユッタリ
- 住民が「オホーツク」を意識。
- 心の繋がりを育む
- 地区や志、職種など類似の意識から統一
- 人と人との心の繋がりが自然発生するように繋がりが生まれる環境づくり。
- オホーツクの花に特徴をもたせ、地域発展につながるまちづくり

1-2. 支え合い安心してイキイキ暮らせる地域と人とのつながり

- 支え合い
 - ◎共生
 - ◎手を取り合い助け合い、
 - ◎人は支え合わなければ生きてゆけない。
 - ◎今いる人々で協力して暮らす
- 安心してイキイキ暮らせる地域
 - ◎コミュニティから文化が生まれる
 - ◎コミュニティや心のつながりの深まり
 - ◎「語り、理解し、支えあう自然と地域」
 - ◎顔の見える地域の繋がり。
 - 仕事があり、家族があり、仲間がいる。心が安まる土地
 - 人が集まる場所を作れば、自然と繋がりは出来るものだと思います。「人・自然・地域 そして青」
 - ・北見工業大学をもっと気軽に市民が立ち寄れる憩いの場に。
 - ・井戸端会議できる場所
 - 経費をかけないで楽しめるイベント
 - ◎子どもからお年寄りまでが、日頃から関わりを持てる社会づくり。

1-3. 保護・保全をしながら恩恵を利活用する自然と人とのつながり

- 自然に生かされていることを認識し
- 自然への畏敬の念を持ち、
- 母なるオホーツクの自然に抱かれた
- 「natural nature okhotsk」
- 「語り、理解し、支えあう自然と地域」
- 「海・山・畑 多種多様な産物が共存するオホーツク」
 - ◎豊富な天然資源を核とする
 - ◎様々な生産物を有機的に結び付け
- 「人間は環境が育てる」
 - ◎貴重な自然はそのままにしながら、みんなで楽しめるように活用する。
 - ◎雄大な自然を利用した公園＝心の充電をするためにふらっと立ち寄りたくなるような場所。

1-4. 活発な交流で互いに高め合う地域と地域のつながり

- 新たな地域間協力体制の構築
- オホーツク民それぞれの強みを結集
- 他の地域との繋がり
- 地域と全国との繋がり
- できるだけ多くの人にオホーツクのさまざまなすばらしさを知ってもらい、見てもらい、体験してもらい、そして住んでもらうような活動を目指すべきだと考える。

2. 『知性・感性と心の豊かさ』

2-1. 新しい時代を切り拓く知性・感性と真の豊かさを知る寛容な心の醸成

- 知性と心を育む
 - ◎豊かな環境自体で、知性や心の豊かさが自然と育まれる
- 新しい時代を切り拓く豊かな知性・感性
 - ◎自由な発想力・想像力
 - 意識の領域を活性化するトレーニング
 - ◎個性的で知的でハイセンスな人が多い
 - ◎芸術家が好んで住みたくなるような土地
 - 日本の中の北欧
 - ◎バランス感覚
 - 適正価格で商売する
 - ◎好奇心・楽しむ
 - ワクワク
 - ◎情緒と感性を育む
 - 音楽、芸術などの文化的な活動
 - 生活のすぐそばにあるスポーツを気軽に手軽に楽しめる
- 寛容な心
 - ◎寛容
 - 精神面の安定
 - 広々した大地のような素朴さ
 - ゆったりとした性格
 - オホーツク地域の雄大さ
 - ・心を癒す
 - ・やすらぎ
 - ◎物質的ではない心の中の真の豊かさを学ぶ
- 強固な人づくり

2-2. 歴史と体験から学ぶ地域の特色を活かした教育

- 新たな経験に対して補助的役割を担える仕組み
 - ◎高校生、大学生が、常に企業に出入りできるようにする
 - ◎旅行代金を補助
- 生涯教育の充実
- 地域の特色を生かした体験と歴史からの学び
 - ◎地域の歴史に学ぶ
 - ◎未来を語るふるさと教育
 - ◎1次産業に触れながらの食農育

◎木育など体験学習による精神教育

■今ある教育環境を活かす

◎10万人あたり1校という全国的にまれな大学の集積を活かす

◎管内の3大学の連携や地域産業との産学官連携

◎学生の雇用創出

■オホーツクの豊かな環境を活かす

2-3. 次代に向けた新しいオホーツク文化の創造

■知性と心を育む文化

◎芸術家が好んで住みたくなるような土地

○日本の中の北欧

◎音楽、芸術などの文化的な活動

◎生活のすぐそばにあるスポーツを気軽に手軽に楽しめる

◎豊かな環境自体で、知性や心の豊かさが自然と育まれる

■自然と人との触れ合いから心を育てる

■オホーツク地域の雄大さ

◎心を癒す

◎やすらぎ

■安心して子育てができる地域

◎こどもたちの心の豊かさを育む機会が増えるようなイベント、または施設での交流

3. 『豊かな生活と身体』

3-1. 地域資源の高付加価値化と地消地産の追求による地域収支の黒字化（地域経済循環率100%）

■自立した経済圏の確立を目指す

■オホーツクの所得水準を上げる

◎活発な経済活動

■域外からの収入増（富をオホーツクに呼び込む）

◎地域の付加価値を高める

○産学官連携による高付加価値産業の立ち上げ

○地域創生プロジェクトチーム創設

・個人参加の地域創生チームを作る（市民・公務員・学生・他）

○今ある資源を利用

・たまねぎ

・育てる漁業

○寒冷地技術など地域の特性を活かしたものづくり

○複数企業による新製品開発、販路開拓、海外進出研究・実践チーム創設。

○安売り競争に巻き込まれないブランド力

・高品質で、独自の価値

・オホーツクにしかない農産物などに注力

・恵まれた自然環境が育てる一次産品が豊富である

○冬が長く厳しいので、本州のように年中農産物が採れない。

○畑の面積が大きいので豊かですが、面積効率は良くない。

◎今までにない切り口でPR

■域外への支出減（富をオホーツクで循環させる）

◎地産地消（地元で消費するものは出来るだけ地元で作る）

○Object Mileageを可能な限り少なく

○自分の周りの「物」は多くが他（他国・発展途上国）からの搾取

○自分の身の回りのものは、なるべく近くで採取されたものや造られたものであるべき

○エネルギーの地産地消

・持続可能な木質バイオマスによる発電所がある

・再生産エネルギーの活用

3-2. 自然の恩恵と生活の質を大切に暮らす

■持続可能で自然の恩恵を守る食

■足るを知る

◎現状でも地域で暮らすことはできる

◎このままでいい

◎今でも充分足りている

■田舎暮らしの魅力

◎「魚・野菜・果物などが新鮮」「山の新鮮な空気」「新鮮な感覚」

◎豊かでおいしい自然、水、空気を無料で味わえる

◎青い空

◎楽しい時間を求めた所

◎住みやすさ

◎不便を楽しむ

◎敢えて暮らしづらい地域の魅力をアピールする

◎協力して暮らす

■住環境としての魅力の顕在化

◎生活費が都市部に比べ低い

◎新築住宅、リノベーションによる住宅の取得

■新たな価値の創造

◎観光客、移住者とのコミュニケーションを大切にして、地元住民との共存を目指す。

◎ストレスの多い生活をしている人にとって非日常・反日常・半日常がここにある。

◎ある意味人間的な居場所、空間、時間が提供できる

3-3. 生涯イキイキ暮らせる健康的な暮らしの実現

■人間の尊厳を保てる社会を目指す

■全道で一番の生涯健康社会の実現

■寿命に正直な健康。不健康な生き方をしない健康

■元気で長生きする人が多い

■イキイキ

■健康第一でボケないぞ

■健康生活の推進

◎予防医学

◎生活習慣病からの脱却

◎医療費の低減

◎豊かな自然環境の中での生活

◎普段からの自然体(自然な健康体)づくり。

○食

- ・たまねぎ＝血液サラサラ→血液、血管系の病気の少ない優位性？
- ・安全な農産物の生産（農業者の理解が必要）
- ・「オホーツクの食文化には人を健康にする力がある」のような状態を目指す
- ・「オホーツクの食こそが健康食と言われるように」
- ・「人の体は食べたものでできている」
- ・「一日野菜350g」
- ・「年中バランスを取る」と言うアンバランスが日本のスタンダード
- ・旬を極限まで楽しむ
- ・強い身体になるような気がします。
- ・健康とは旬と熱を取り込むこと。

○運動

- ・オホーツクマラソン、パークゴルフなど多くのスポーツイベント参加により健康体の維持
- ・スポーツを自ら楽しみ、より充実

○仕事

- ・元気な60代、70代、80代の人に仕事の間を提供し、元気に活躍してもらう。
- ・元気で働ける高齢者を地域で増やす
- ・元気であれば働きたいと願う高齢者もいる

○高齢者を組織する（例えば、カラオケ、健康体操、俳句○短歌、軽作業等）

- ・組織、指導することができる高齢者対象の指導者養成講座を自治体がおこなう

3-4. 時代を先導する医療・福祉が充実した社会

- 少子高齢化地区で北海道一順応しているオホーツク医療、福祉
- 労働者も介護等で悩まず安心して働けるオホーツク
- 心と体に優しい、助け合いの社会
- 個々のニーズに対応し、安心して暮らせる福祉施設の充実
- 医療など健康に関するインフラ整備
- 医療ツーリズムの確立
- 「癒しがキーワード」
- 安心して出産、子育てができる
 - ◎2人、3人はあたりまえの「子だくさんのホーツク」
 - ◎里帰りして出産、子育てからの移住

4. 『社会の仕組み』

4-1. 多様な連携と共働が実現できる社会システム

- 深い連携体制に基づく社会の仕組み
 - ◎自助・共助・公助の役割を明確
 - ◎心と体に優しい、助け合いの社会
 - ◎「皆で語り合い・助け合い・おしくらまんじゅうだ」
 - ◎地域でのコミュニケーションを大事にすべき
 - ◎人に優しく元気なオホーツク共和国
 - ◎人口が少なくても効率的に暮らせる社会。

- 行政同士の連携強化
 - ◎住民と行政の協働による地域福祉の形成
 - ◎道東地域の連携

4-2. 持続可能で効率的な社会基盤の形成による自立した元気なオホーツク

- インフラの効率化
 - ◎生活する上で最低限必要なインフラ（学校・ガソリンスタンド・病院・スーパーマーケットなど）を維持していくことを、社会で共有できるシステムを構築
 - ◎高齢化社会に対応する社会インフラ（広範囲で分散された地域）の整備
- 交通網の整備
 - ◎観光客を呼び込む上で重要。
 - ◎空港からの移動手段。バス・JR・レンタカーなどの充実。
 - ◎交通弱者の対応
 - ◎交通が高速で利便かつ安いこと
- 物流
 - ◎都市部からも都市部へも共同で運送できる仕組みづくり。
- 日本の食料基地としての地位向上
 - ◎1次産業のテコ入れを
 - ・「一次産業こそが最先端産業」
- 自然エネルギーを軸にエネルギーで自立するゼロエネルギーカントリー
 - ◎エネルギーの地産地消により富の流出を減らす。
 - ◎ゼロエネルギー住宅
- 災害に強い防災

4-3. 子どもがのびのびと育ち、世代を超えて生きがいを実感できる社会環境

- 若者の定住促進
 - ◎若者が未来に展望を抱くことが出来る環境
 - ◎都市部に流出する人材が戻ってきやすいように、何らかの補助を出す。
 - ◎子供たちが住みたいまち、
 - ◎良い人材が求める良い環境をつくる
 - 週休2日制と業務の効率化を目指すべきだと思う。
 - ブラック排除。
 - 有給休暇が取りやすい
 - 冬の長期休暇
- 安心して出産、子育てができる
 - ◎2人、3人はあたりまえの「子だくさんのホ-ツク」
 - ◎里帰りして出産、子育てからの移住

【目指す姿】 B案構造化

1. 『人・地域・自然とのつながり』

母なるオホーツクの大地に感謝し、人と人、人と自然との共生により地域への愛着と誇りを育み、多様な主体の協働による広くて活発な交流と連携を進める。

1-1. 多様性を認め合い、連携と協働を促進

- 自由で多様性を尊ぶ社会
- 深い連携体制に基づく社会の仕組み
 - ◎自助・共助・公助の役割を明確
 - ◎共生
 - ◎心と体に優しい、助け合いの社会
 - ◎「皆で語り合い・助け合い・おしくらまんじゅうだ」
 - ◎手を取り合い助け合い、
 - ◎地域でのコミュニケーションを大事にすべき
 - ◎人に優しく元気なオホーツク共和国
 - ◎人口が少なくても効率的に暮らせる社会。
 - ◎人は支え合わなければ生きてゆけない。
 - ◎今いる人々で協力して暮らす
- 行政同士の連携強化
 - ◎住民と行政の協働による地域福祉の形成
 - ◎道東地域の連携

1-2. 故郷を想う気持ちと絆が育む地域内交流

- 住民が「オホーツク」を意識。
- 心の繋がりを育む
- 地区や志、職種など類似の意識から統一
- 人と人との心の繋がりが自然発生するように繋がりが生まれる環境づくり。
- ユッタリ
- 安心してイキイキ暮らせる地域
 - ◎子どもからお年寄りまでが、日頃から関わりを持てる社会づくり。
 - ◎「人間は環境が育てる」
 - ◎コミュニティから文化が生まれる
 - ◎コミュニティや心のつながりの深まり
 - ◎顔の見える地域の繋がりを。
 - 仕事があり、家族があり、仲間がいる。心が安まる土地
 - 人が集まる場所を作れば、自然と繋がりは出来るものだと思います。「人・自然・地域 そして青」
 - ・北見工業大学をもっと気軽に市民が立ち寄れる憩いの場に。
 - ・井戸端会議できる場所
 - 経費をかけないで楽しめるイベント
- オホーツクの花に特徴をもたせ、地域発展につながるまちづくり

1-3. 地域外との活発な交流

- 新たな地域間協力体制の構築
- オホーツク民それぞれの強みを結集
- 他の地域との繋がりを

- 地域と全国との繋がり
- できるだけ多くの人にオホーツクのさまざまなすばらしさを知ってもらい、見てもらい、体験してもらい、そして住んでもらうような活動を目指すべきだと考える。

1-4. 天然資源の保全をしながら恩恵を受ける持続可能なシステム

- 母なるオホーツクの自然に抱かれた
- 自然に生かされていることを認識し
- 自然への畏敬の念を持ち、
- 「natural nature okhotsk」
- 「語り、理解し、支えあう自然と地域」
- 「海・山・畑 多種多様な産物が共存するオホーツク」
 - ◎豊富な天然資源を核とする
 - ◎様々な生産物を有機的に結び付け
- 「人間は環境が育てる」
 - ◎貴重な自然はそのままにしながら、みんなで楽しめるように活用する。
 - ◎雄大な自然を利用した公園＝心の充電をするためにふらっと立ち寄りたくなるような場所。

2. 『知性・感性と心の豊かさ』

一人ひとりが個性と創造性を培いながら、地域住民が一体となって歴史や自然との融合を図り、豊かな情感を育む独自の文化を形成する。

2-1. 自由な発想、知性と寛容な心の育成

- 豊かな環境自体で、知性や心の豊かさが自然と育まれる
- 自由な発想力・想像力
 - ◎意識の領域を活性化するトレーニング
 - ◎好奇心・楽しむ
 - ◎ワクワク
- バランス感覚
 - ◎適正価格で商売する
- 寛容な心
 - ◎自然と人との触れ合いから心を育てる
 - 精神面の安定
 - ◎オホーツク地域の雄大さ
 - 心を癒す
 - やすらぎ
 - ◎物質的ではない心の中の真の豊かさを学ぶ

2-2. 地域の歴史と体験から学ぶ地域の特色を活かした教育

- 地域の特色を生かした体験と歴史からの学び
 - ◎地域の歴史に学ぶ
 - ◎未来を語るふるさと教育
 - ◎1次産業に触れながらの食農育
 - ◎木育など体験学習による精神教育
- 今ある教育環境を活かす
 - ◎10万人あたり1校という全国的にまれな大学の集積を活かす

◎管内の3大学の連携や地域産業との産学官連携

◎学生の雇用創出

■オホーツクの豊かな環境を活かす

■新たな経験に対して補助的役割を担える仕組み

◎高校生、大学生が、常に企業に出入りできるようにする

◎旅行代金を補助

2-3. 北の雄大な自然から生まれるハイセンスな文化

■個性的で知的でハイセンスな人が多い

■芸術家が好んで住みたくなるような土地

◎日本の中の北欧

■知性と心を育む文化

◎芸術家が好んで住みたくなるような土地

○日本の中の北欧

◎音楽、芸術などの文化的な活動

■次代に向けた新しいオホーツク文化の創造

◎生活のすぐそばにあるスポーツを気軽に手軽に楽しめる

◎豊かな環境自体で、知性や心の豊かさが自然と育まれる

3. 『身体の健康』

誰もが住み慣れた地域で安心して必要な医療や福祉を享受し、生涯健康で生き生きと暮らせる健康長寿の地域づくりを進める。

3-1. 健康促進のためのスポーツ推進

■オホーツクマラソン、パークゴルフなど多くのスポーツイベント参加により健康体の維持

■スポーツを自ら楽しみ、より充実

■強固な人づくり

3-2. 心身両面の健康

■人間の尊厳を保てる社会を目指す

■全道で一番の生涯健康社会の実現

■寿命に正直な健康。不健康な生き方をしない健康

■元気で長生きする人が多い

■イキイキ

■健康第一でボケないぞ

■健康生活の推進

◎予防医学

◎生活習慣病からの脱却

◎医療費の低減

◎豊かな自然環境の中での生活

◎普段からの自然体(自然な健康体)づくり。

○食

・たまねぎ＝血液サラサラ→血液、血管系の病気の少ない優位性？

・安全な農産物の生産（農業者の理解が必要）

・「オホーツクの食文化には人を健康にする力がある」のような状態を目指す

・「オホーツクの食こそが健康食と言われるように」

- ・「人の体は食べたものでできている」
- ・「一日野菜350g」
- ・「年中バランスを取る」と言うアンバランスが日本のスタンダード
- ・旬を極限まで楽しむ
- ・強い身体になるような気がします。
- ・健康とは旬と熱を取り込むこと。

3-3. 時代を先導する医療・福祉

- 少子高齢化地区で北海道一順応しているオホーツク医療、福祉
- 労働者も介護等で悩まず安心して働けるオホーツク
- 心と体に優しい、助け合いの社会
- 個々のニーズに対応し、安心して暮らせる福祉施設の充実
- 医療など健康に関するインフラ整備
- 医療ツーリズムの確立
- 「癒しがキーワード」
- 安心して出産、子育てができる
 - ◎2人、3人はあたりまえの「子だくさんのホーツク」
 - ◎里帰りして出産、子育てからの移住

4. 『生活の豊かさ』+『社会の仕組み』

地域固有の魅力や磁力を創生するとともに、生活基盤としての利便性を堪能でき、人が地域に密着できる持続可能な地域社会を実現する。

4-1. 地域資源の高付加価値化による地域収支の黒字化

- オホーツクの所得水準を上げる
 - ◎活発な経済活動
- 域外からの収入増（富をオホーツクに呼び込む）
 - ◎地域の付加価値を高める
 - 産学官連携による高付加価値産業の立ち上げ
 - 地域創生プロジェクトチーム創設
 - ・個人参加の地域創生チームを作る（市民・公務員・学生・他）
 - 今ある資源を利用
 - ・たまねぎ
 - ・育てる漁業
 - 寒冷地技術など地域の特性を活かしたものづくり
 - 複数企業による新製品開発、販路開拓、海外進出研究○実践チーム創設。
 - 安売り競争に巻き込まれないブランド力
 - ・高品質で、独自の価値
 - ・オホーツクにしかない農産物などに注力
 - ・恵まれた自然環境が育てる一次産品が豊富である
 - 冬が長く厳しいので、本州のように年中農産物が採れない。
 - 畑の面積が大きいので豊かですが、面積効率は良くない。
 - ◎今までにない切り口でPR

4-2. 地消資産の追求による自立した地域経済圏

- 自立した経済圏の確立を目指す

■域外への支出減（富をオホーツクで循環させる）

◎地産地消（地元で消費するものは出来るだけ地元で作る）

○Object Mileageを可能な限り少なく

○自分の周りの「物」は多くが他（他国・発展途上国）からの搾取

○自分の身の回りのものは、なるべく近くで採取されたものや造られたものであるべき

○エネルギーの地産地消

・持続可能な木質バイオマスによる発電所がある

・再生産エネルギーの活用

4-3. 持続可能で効率的な社会を実現するインフラ

■インフラの効率化

◎生活する上で最低限必要なインフラ（学校・ガソリンスタンド・病院・スーパーマーケットなど）を維持していくことを、社会で共有できるシステムを構築

◎高齢化社会に対応する社会インフラ（広範囲で分散された地域）の整備

■交通網の整備

◎観光客を呼び込む上で重要。

◎空港からの移動手段。バス・JR・レンタカーなどの充実。

◎交通弱者の対応

◎交通が高速で利便かつ安いこと

■物流

◎都市部からも都市部へも共同で運送できる仕組みづくり。

■日本の食料基地としての地位向上

◎1次産業のテコ入れを

○「一次産業こそが最先端産業」

■自然エネルギーを軸にエネルギーで自立するゼロエネルギーカントリー

◎エネルギーの地産地消により富の流出を減らす。

◎ゼロエネルギー住宅

■災害に強い防災

4-4. 経済だけでなく生活の質を重視

■持続可能で自然の恩恵を守る食

■足るを知る

◎現状でも地域で暮らすことはできる

◎このままでいい

◎今でも充分足りている

■田舎暮らしの魅力

◎「魚・野菜・果物などが新鮮」「山の新鮮な空気」「新鮮な感覚」

◎豊かでおいしい自然、水、空気を無料で味わえる

◎青い空

◎楽しい時間を求めた所

◎住みやすさ

◎不便を楽しむ

◎敢えて暮らしづらい地域の魅力をアピールする

◎協力して暮らす

■住環境としての魅力の顕在化

- ◎生活費が都市部に比べ低い
- ◎新築住宅、リノベーションによる住宅の取得

■新たな価値の創造

- ◎観光客、移住者とのコミュニケーションを大切にして、地元住民との共存を目指す。
- ◎ストレスの多い生活をしている人にとって非日常・反日常・半日常がここにある。
- ◎ある意味人間的な居場所、空間、時間が提供できる

4-5. 安心して出産し子育て出来る環境

■安心して出産、子育てができる

- ◎2人、3人はあたりまえの「子だくさんのホ-ツク」
- ◎里帰りして出産、子育てからの移住

4-6. どの世代も生きがいを実感できるオホ-ツク

■仕事

- ◎元気な60代、70代、80代の人に仕事の場を提供し、元気に活躍してもらおう。
- ◎元気で働ける高齢者を地域で増やす
- ◎元気であれば働きたいと願う高齢者もいる

■高齢者を組織する（例えば、カラオケ、健康体操、俳句・短歌、軽作業等）

- ◎組織、指導することができる高齢者対象の指導者養成講座を自治体がおこなう

■生涯教育の充実

■若者の定住促進

- ◎若者が未来に展望を抱くことが出来る環境
- ◎都市部に流出する人材が戻ってきやすいように、何らかの補助を出す。
- ◎子供たちが住みたいまち、
- ◎良い人材が求める良い環境をつくる
 - 週休2日制と業務の効率化を目指すべきだと思う。
 - ブラック排除。
 - 有給休暇が取りやすい
 - 冬の長期休暇

■仕事、生活の充実

■特別な力がなくても一生懸命働けば暮らせる世の中

【目指す姿】 C案構造化

1. 『人・地域・自然とのつながり』

自然の恩恵に感謝し、ふるさとを想う気持ちで結ばれた人と人が多様性を認め支え合い、地域と地域が活発な交流で高め合う「つながりの活性化」

■住民が「オホーツク」を意識。

■ユッタリ

1-1. 既存コミュニティの活性化

■心の繋がりを育む

■地区や志、職種など類似の意識から統一

■安心してイキイキ暮らせる地域

◎コミュニティから文化が生まれる

◎コミュニティや心の子ながりの深まり

◎「語り、理解し、支えあう自然と地域」

◎人に優しく元気なオホーツク共和国

◎顔の見える地域の繋がり。

○仕事があり、家族があり、仲間がいる。心が安まる土地

○人が集まる場所を作れば、自然と繋がり出来るものだと思います。「人・自然・地域
そして青」

・北見工業大学をもっと気軽に市民が立ち寄れる憩いの場に。

・井戸端会議できる場所

○経費をかけないで楽しめるイベント

◎子どもからお年寄りまでが、日頃から関わりを持てる社会づくり。

1-2. 地域内外の新しいネットワークづくり

■人と人との心の繋がりが自然発生するように繋がりが生まれる環境づくり。

■オホーツク民それぞれの強みを結集

■他の地域との繋がり

■地域と全国との繋がり

1-3. 多様な連携と共働が実現できる社会システムづくり

■新たな地域間協力体制の構築

■深い連携体制に基づく社会の仕組み

◎自助・共助・公助の役割を明確

◎心と体に優しい、助け合いの社会

◎「皆で語り合い・助け合い・おしくらまんじゅうだ」

◎地域でのコミュニケーションを大事にすべき

◎人口が少なくても効率的に暮らせる社会。

■行政同士の連携強化

◎住民と行政の協働による地域福祉の形成

◎道東地域の連携

■価値観の画一化、排他的傾向に対し、自由で多様性を尊ぶ社会

■支え合い

◎共生

◎手を取り合い助け合い、

◎人は支え合わなければ生きてゆけない。

◎今いる人々で協力して暮らす

1-4. 住民が保護・保全する人と自然の関係づくり

- 自然に生かされていることを認識し
- 自然への畏敬の念を持ち、
- 母なるオホーツクの自然に抱かれた
- 「natural nature okhotsk」
- 「語り、理解し、支えあう自然と地域」
- 「海・山・畑 多種多様な産物が共存するオホーツク」
 - ◎豊富な天然資源を核とする
 - ◎様々な生産物を有機的に結び付け

2. 『知性・感性と心の豊かさ』 + 『身体の健康』 = 『個人の豊かさ』

新しい時代を切り拓く知性・感性と、真の豊かさを知る寛容な心、そして生涯元気な体を持つ豊かな「人づくり」

- 知性と心を育む
- 新しい時代を切り拓く豊かな知性・感性
- 寛容な心
- 強固な人づくり
 - ◎好奇心・楽しむ
 - ワクワク
- 全道で一番の生涯健康社会の実現
- 子どもがのびのびと育つ
 - ◎こどもたちの心の豊かさを育む機会が増えるようなイベント、または施設での交流

2-1. 心身の基礎を作る自然体験

- 「人間は環境が育てる」
- 貴重な自然はそのままにしながら、みんなで楽しめるように活用する。
- 雄大な自然を利用した公園 = 心の充電をするためにふらっと立ち寄りたくなるような場所。
- 豊かな環境自体で、知性や心の豊かさが自然と育まれる
- 寛容
 - ◎精神面の安定
 - ◎広々した大地のような素朴さ
 - ◎ゆったりとした性格
 - ◎オホーツク地域の雄大さ
 - 心を癒す
 - やすらぎ
- 物質的ではない心の中の真の豊かさを学ぶ
- オホーツクの豊かな環境を活かす
- 自然と人との触れ合いから心を育てる

2-2. 地域の特性を活かした体験学習

- 地域の特色を生かした体験からの学び
 - ◎1次産業に触れながらの食農育
 - ◎木育など体験学習による精神教育
- オホーツクの豊かな環境を活かす

■今ある教育環境を活かす

- ◎10万人あたり1校という全国的にまれな大学の集積を活かす
- ◎管内の3大学の連携や地域産業との産学官連携

■新たな経験に対して補助的役割を担える仕組み

- ◎高校生、大学生が、常に企業に出入りできるようにする
- ◎旅行代金を補助

■バランス感覚

- ◎適正価格で商売する

2-3. 先人から継承した地域の歴史教育

■地域の歴史に学ぶ

■未来を語るふるさと教育

2-4. 心身を鍛えるスポーツ振興

■生活のすぐそばにあるスポーツを気軽に手軽に楽しめる

■オホーツクマラソン、パークゴルフなど多くのスポーツイベント参加により健康体の維持

■スポーツを自ら楽しみ、より充実

2-5. 想像力を育む文化活動振興

■心や情緒・感性を育む文化

- ◎音楽、芸術などの文化的な活動

■自由な発想力・想像力

- ◎意識の領域を活性化するトレーニング

■個性的で知的でハイセンスな人が多い

2-6. 健康寿命を増進する生涯教育

■生涯教育の充実

- ◎元気で長生きする人が多い
- ◎健康第一でボケないぞ

2-7. 生涯イキイキ健康生活の推進

■寿命に正直な健康。不健康な生き方をしない健康

■イキイキ

■健康生活の推進

- ◎予防医学
- ◎生活習慣病からの脱却
- ◎医療費の低減
- ◎豊かな自然環境の中での生活
- ◎普段からの自然体(自然な健康体)づくり。

○食

- ・たまねぎ=血液サラサラ→血液、血管系の病気の少ない優位性?
- ・安全な農産物の生産(農業者の理解が必要)
- ・「オホーツクの食文化には人を健康にする力がある」のような状態を目指す
- ・「オホーツクの食こそが健康食と言われるように」
- ・「人の体は食べたものでできている」
- ・「一日野菜350g」
- ・「年中バランスを取る」というアンバランスが日本のスタンダード
- ・旬を極限まで楽しむ

- ・強い身体になるような気がします。
- ・健康とは旬と熱を取り込むこと。

○仕事

- ・元気な60代、70代、80代の人に仕事の場を提供し、元気に活躍してもらう。
- ・元気で働ける高齢者を地域で増やす
- ・元気であれば働きたいと願う高齢者もいる

○高齢者を組織する（例えば、カラオケ、健康体操、俳句・短歌、軽作業等）

- ・組織、指導することができる高齢者対象の指導者養成講座を自治体がおこなう

3. 『生活の（物質的な）豊かさ』 + 『社会の仕組み』 = 『社会環境の豊かさ』

持続可能で自立した元気な社会・経済と次代に向けた新しいオホーツク文化の創造による世代を超えて生きがいを実感できる「環境づくり」

3-1. 地域収支を黒字化する企業づくり

■自立した経済圏の確立を目指す

■オホーツクの所得水準を上げる

◎活発な経済活動

■域外からの収入増（富をオホーツクに呼び込む）

◎地域資源の高付加価値化

- 産学官連携による高付加価値産業の立ち上げ
- 地域創生プロジェクトチーム創設
 - ・個人参加の地域創生チームを作る（市民・公務員・学生・他）
- 今ある資源を利用
 - ・たまねぎ
 - ・育てる漁業
- 寒冷地技術など地域の特性を活かしたものづくり
- 複数企業による新製品開発、販路開拓、海外進出研究・実践チーム創設。
- 安売り競争に巻き込まれないブランド力
 - ・高品質で、独自の価値
 - ・オホーツクにしかない農産物などに注力
 - ・恵まれた自然環境が育てる一次産品が豊富である
- 冬が長く厳しいので、本州のように年中農産物が採れない。
- 畑の面積が大きいので豊かですが、面積効率は良くない。

◎今までにない切り口でPR

■域外への支出減（富をオホーツクで循環させる）

◎地消地産（地元で消費するものは出来るだけ地元で作る）

- Object Mileageを可能な限り少なく
- 自分の周りの「物」は多くが他（他国・発展途上国）からの搾取
- 自分の身の回りのものは、なるべく近くで採取されたものや造られたものであるべき
- エネルギーの地産地消
 - ・持続可能な木質バイオマスによる発電所がある
 - ・再生産エネルギーの活用

3-2. 持続可能で効率的な社会基盤の形成

■インフラの効率化

◎生活する上で最低限必要なインフラ（学校・ガソリンスタンド・病院・スーパーマーケットなど）を維持していくことを、社会で共有できるシステムを構築

◎高齢化社会に対応する社会インフラ（広範囲で分散された地域）の整備

■交通網の整備

◎観光客を呼び込む上で重要。

◎空港からの移動手段。バス・JR・レンタカーなどの充実。

◎交通弱者の対応

◎交通が高速で利便かつ安いこと

■物流

◎都市部からも都市部へも共同で運送できる仕組みづくり。

■日本の食料基地としての地位向上

◎1次産業のテコ入れを

・「一次産業こそが最先端産業」

■自然エネルギーを軸にエネルギーで自立するゼロエネルギーカントリー

◎エネルギーの地産地消により富の流出を減らす。

◎ゼロエネルギー住宅

■災害に強い防災

3-3. 誰もが魅力を感じる労働環境の整備

■若者の定住促進

■若者が未来に展望を抱くことが出来る環境

■都市部に流出する人材が戻ってきやすいように、何らかの補助を出す。

■良い人材が求める良い環境をつくる

◎週休2日制と業務の効率化を目指すべきだと思う。

◎ブラック排除。

◎有給休暇が取りやすい

◎冬の長期休暇

■学生の雇用創出

■仕事、生活の充実

■特別な力がなくても一生懸命働けば暮らせる世の中

3-4. 自然の恩恵と生活の質を大切にする暮らしの顕在化

■持続可能で自然の恩恵を守る食

■足るを知る

◎現状でも地域で暮らすことはできる

◎このままでいい

◎今でも充分足りている

■田舎暮らしの魅力

◎「魚・野菜・果物などが新鮮」「山の新鮮な空気」「新鮮な感覚」

◎豊かでおいしい自然、水、空気を無料で味わえる

◎青い空

◎楽しい時間を求めた所

◎住みやすさ

- ◎不便を楽しむ
- ◎敢えて暮らしづらい地域の魅力をアピールする
- ◎協力して暮らす

■住環境としての魅力の顕在化

- ◎生活費が都市部に比べ低い
- ◎新築住宅、リノベーションによる住宅の取得

■新たな価値の創造

■できるだけ多くの人にオホーツクのさまざまなすばらしさを知ってもらい、見てもらい、体験してもらい、そして住んでもらうような活動を目指すべきだと考える。

- ◎観光客、移住者とのコミュニケーションを大切にして、地元住民との共存を目指す。
- ◎ストレスの多い生活をしている人にとって非日常・反日常・半日常がここにある。
- ◎ある意味人間的な居場所、空間、時間が提供できる

3-5. 愛着が湧く文化的なまちづくり

- オホーツクの花に特徴をもたせ、地域発展につながるまちづくり
- 芸術家が好んで住みたくなるような土地
- 日本の中の北欧
- 子供たちが住みたいまち、

3-6. 時代を先導する医療・福祉の推進

- 人間の尊厳を保てる社会を目指す
- 少子高齢化地区で北海道一順応しているオホーツク医療、福祉
- 労働者も介護等で悩まず安心して働けるオホーツク
- 心と体に優しい、助け合いの社会
- 個々のニーズに対応し、安心して暮らせる福祉施設の充実
- 医療など健康に関するインフラ整備
- 医療ツーリズムの確立
- 「癒しがキーワード」

3-7. 安心して出産、子育てができる環境づくり

- 2人、3人はあたりまえの「子だくさんのホ-ツ」
- 里帰りして出産、子育てからの移住